

# 現代パレスチナにおける抵抗運動の現在

## － ハリール（ヘブロン）における旧市街復興運動を通じて －

平成 25 年入学

派遣先国：ヨルダン，パレスチナ自治区（イスラエル）

山本 健介

キーワード：パレスチナ抵抗運動，ハリール（ヘブロン），聖地，ガヴァナンス

### 対象とする問題の概要（～400 字）

筆者の問題関心は、1993 年のオスロ合意以降、それまでの主流のパレスチナ抵抗運動が困難な状況にある中で、現在どのような抵抗運動が行なわれているのかという点にある。

1993 年のオスロ合意においては、それまで武装闘争を中心としてきたパレスチナ人の抵抗運動に対して、武力による解決ではなく、交渉によるイスラエルと独立パレスチナの共存を目指す和平策が提示された（二国家共存案）。しかし、現在も和平の達成は難しく、和平交渉の再開そのものが困難な状況にある。他方で、武装闘争を続ける組織も存在しており、住民から一定の支持を受けているものの、イスラエルの圧倒的な軍事力を前にして効果的な抵抗の手段とはなっていない。

しかしながら、このような行き詰まりの状況下でも、パレスチナ人は様々な形で自己存在の確認と抵抗を実践している。このような抵抗が何を指すのか、それがこれまでの抵抗運動史の中に、どのように位置づけられるのかといったテーマが筆者の大きな問題関心である。

### 研究目的（～400 字）

筆者は、パレスチナ人の抵抗運動を考察する上で、パレスチナにおける「聖なる都市」に注目しており、特に紛争の前線の一つでもあるハリール（ヘブロン）を事例としている。

パレスチナ／イスラエル紛争においては、1967 年の第三次中東戦争以降、双方の側で「宗教復興」が生じ、宗教勢力が台頭した。筆者が研究対象とするハリールは、ユダヤ・イスラーム共通の預言者イブラーヒームゆかりの町であり、二宗教に共通の重要な聖地とされる。そのため、ハリールは宗教復興の中で、次第に争点化され、激しい紛争を経験してきた。

筆者は、紛争によって破壊されつつあるハリール旧市街の包括的復興を目指すパレスチナ組織を考察し、その意義や目的を明らかにすることを目指している。そして、最終的には、ユダヤ・イスラーム共通の聖地という事例から、かつての共存状態や現在の対立など歴史的な脈を踏まえた上で、継続する紛争の特質を明らかにしたい。

### フィールドワークから得られた知見について（～800 字）

本渡航では、ハリール旧市街の復興を行なう Hebron Rehabilitation Committee（HRC）を調査の中心に据えた。その主な活動目的は、ハリール旧市街の老朽化した建造物やイスラエルによる破壊行為を受けた商店などの再建を行うことである。その上で、深刻な経済状況の悪化やイスラエルによる強圧的な政策を受ける旧市街において、そのアラブ・イスラーム的な性格を守るために、町の景観を保持し、アラ

ブ人人口の減少を防ぐことが目指されている。

筆者は第一に、組織の現在までの実績などの資料を集め、数量的なデータを入手した。旧市街における公的機関による人口調査は1995年以降行なわれていないが、HRCが活動を開始した1996年から2008年までに、10倍以上の住民増加を達成したことが明らかとなった。

次に、HRCの活動目的をより深く知るため、関係者へのインタビューを行なった。組織の幹部の多くは多忙を極めており、この作業は想定以上に難航したが、組織の所長を務める人物と話す機会が得られた。その中で、組織の従業員の多くが旧市街にルーツを持っており、彼らはかつての旧市街の繁栄の「記憶」を重視し、そのような旧市街の姿に戻ることを願って、活動を行なっているという貴重な見解を聞くことができた。

HRCの他にも、ワクフ（寄進地）というイスラーム的なシステムを用いて、無料で食事を提供する施設「タキーヤ・イブラーヒーミーヤ」でも調査を行なった。これら二つの運動はいずれも、旧市街におけるパレスチナ人の生活を維持するという目的を共有していると言える。どちらの組織も、旧市街に隣接するユダヤ人入植地や駐留するイスラエル軍による圧政の中で、聖地ハリールの旧市街に住むパレスチナ人を絶やさないためにその復興を目指しており、旧市街のガヴァナンスを保つという形での抵抗運動を続けている。

#### 今後の展開・反省点（～400字）

今回の渡航では、限られた時間の中で、資料収集に大きな比重をかけて調査を行なった。結果的に、貴重な資料を数多く収集することが出来た。他方で、旧市街で生きるパレスチナ人に対する調査は予備調査に留まり、今後の課題となった。さらに、昨年からのテーマであった、アラビア語の話し言葉（アンミーヤ）の習得については、ハリール旧市街の方言やアクセントの違いなどが思った以上に複雑であることが分かり、さらに話すスピードについていくことが出来ず、さらなるトレーニングが必要であることを実感した。



ハリール旧市街のHRC事務所（パレスチナ自治区・ヘブロン市、2014年9月7日）



ハリール旧市街の野菜市場（パレスチナ自治区・ヘブロン市，2014年9月8日）



タキーヤ・イブラーヒーミーヤの運営風景（パレスチナ自治区・ヘブロン市，2014年9月15日）